

◆ 一方で、人手の入らなくなった里山の中には、ツルや枯木枯枝が藪のようになり、それが野生鳥獣害の要因の一つとなっているのではないかとの指摘も存在。

◆ また、里地里山は、日本の原風景とも言うべき農山村地域を構成する重要な因子であるとともに、多様な生物を育む場となっている。

◆ 環境省のメッシュ調査によれば、RDB種（レッドデータブックに掲載されている絶滅のおそれのある種）が集中した地域の約6割が里地里山と重複しており、里地里山が生物多様性保全上重要な地域であることも分かる。

### 【荒廃する里地里山と農産物被害】



※耕作放棄地と隣接する二次林：北杜市内

※イノシシによる農産物（カボチャ）の被害：北杜市内

### 【里地里山の生物多様性】

	RDB種 集 中	メダカ	ギ フ チヨウ	トノサマ ガエル	ノコギリ クワガタ	サシバ	サシヨウウオ
重複率	57%	69%	58%	62%	53%	65%	65%

※環境省（里地里山調査）

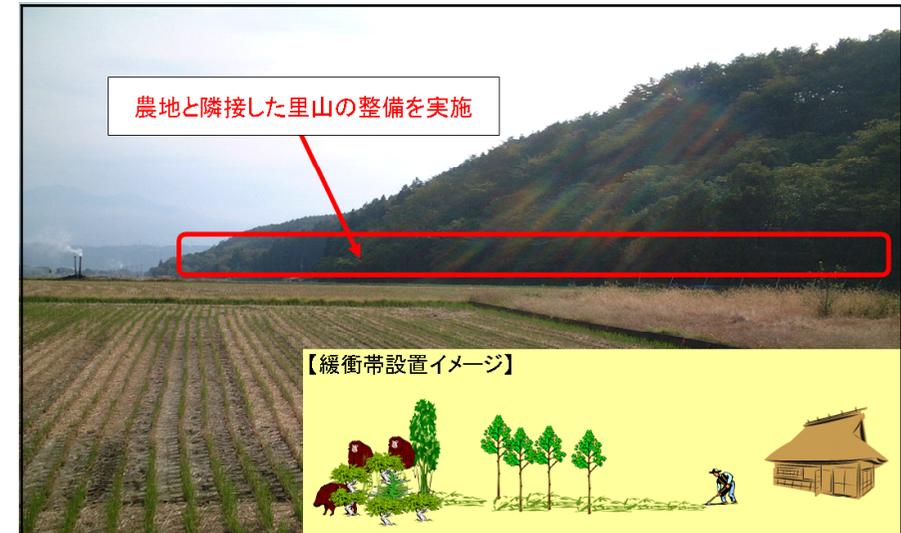
※メッシュ調査により、動植物の生息地域と里地里山の重複関係を調査

### 【里山整備による緩衝帯の設置】

- ◆ このような状況を受け、農地等に隣接した里山整備を行い、人と動物との緩衝帯を設置するとともに、その鳥獣害防除効果を実証するモデル事業を県と共同して実施予定。

- ◆ 加えて、野生鳥獣の移動を把握し、効果的な追い払い等が行えるよう、鳥獣被害ハザードマップの作成、杜市内のサル5群への発信器取付・受信機貸出しを実施する予定。

※ 山梨県においても、県内のサル8群（北杜市内6群）に発信器を設置し、生息実態調査を実施中である。



- ◆ 里山は遷移の途中段階にある二次林であり、自然に委ねることが基本ではあるが、農地等の周辺森林における不用木除去等については、鳥獣害対策の一環としても支援していくことが重要。

### 【発信器取付のイメージ】

